

稲葉健二のコラム



今回はワクチン接種について書かせて頂きます。現在新型コロナウイルスに対するワクチン接種が進められています。市川市では、65才以上の高齢者のワクチン接種が大分進んで来ました。市川市の7/11現在の接種率は、対象者を105000人として、1回目接種済83565人(接種率79.6%)、2回目接種済み36244人(接種率34.5%)です。近隣市の状況は、船橋市の7/9現在の接種率は、対象者を160752人として、1回目接種済103403人(接種率64.32%)、2回目接種済み47698人(接種率29.67%)です。松戸市の7/8現在の接種率は、対象者を133903人として、1回目接種済98500人(接種率73.56%)、2回目接種済み72944人(接種率54.48%)です。松戸市は12才以上64才以下の方の接種も4%くらい1回目接種が済んでいます。各市ごとに接種や予約方法が違ったりしていますが、ここに来て大分落ち着いてきたようですが、ワクチンの供給不足が一番不安材料であることはどの市も共通の課題であります。市川市のスタートは予約センターとWeb申し込みで医療機関のみの接種でした。その後、集団接種会場を庁舎や体育館などに広げ接種率を大きく上げて来ました。船橋市は、予約センター型ではなく、医療機関が独自に予約をとる形で進めて行きましたが、現在は集団接種やWebの予約システムも行っています。松戸市は、スタートから、かなり積極的に集団接種を進めていました。

このワクチン接種に関して6月議会の代表質問でも取り上げさせて頂きました。電話が繋がらない、Webの申し込みがわからないなど多くの声を頂きました。また、「夫婦同時に申し込みできない」「予約が空いている一覧があればわかりやすい」「地域の希望場所がとれない」他、改善ができるものは、64才以下の時のシステムに反映できるようにお願いをしています。私は高齢者の目途がたち、64才以下に入った段階で優先順位をつけて、子どもたちと直接関わる方たち、例えば保育園の先生や関係者、幼稚園の先生や関係者、小学校の教員や関係者など、ワクチン接種の対象にならない子どもを守るために、子どもと直接関わる人たちを先行して接種してもらうことや、ワクチン接種をされない方への配慮もお願いしました。アレルギーなどで打てない方や打ちたくない方への配慮も同時に考えていく必要があります。

ワクチン接種が全てではありませんが、現況この施策をすすめることで、症状の重症化を防いだり、感染しづらくするなどの期待があります。ただ、接種に関して、多くの課題や現実を学んだ今、今後のワクチン接種をいかに効率よく、希望する方に早く打てるように行政が努力していかなければなりません。市川市の人口形成でいくと、65才以上の方を、105000人で計算していますが、16才以上～64才以下の方は312578人で計算しています。実に3倍近い方にこれからワクチン接種が始まるわけです。コロナ終息まで気を抜かず頑張っていきたいと思えます。



ご意見・ご要望等お気軽にどうぞ!



市川市議会議員

稲葉健二の ひと言メッセージ

中核市移行についてパート②

コロナ禍の続く中、ワクチン接種の課題もあると思いますが、多くの方が安心して生活できるように、引き続き頑張っていきたいと思います。

新庁舎建設事業も全面開庁して、仮庁舎で執務をしていた部署も全て引越が終わりました。ただ、気がかりなのは、新第1庁舎の国道沿いの外壁のルーバーのクラックのことです。緊急対応や毎週の点検などは行っていますが、原因究明と今後の恒久的な対応を第三者委員会に委ね、施工業者の責任も含め現在対応中です。

前回のひと言メッセージで中核市の課題を取り上げました。今回も中核市のことを深めて行きたいと思えます。現在もコロナ禍が続いている状況での保健所の重要性は理解しています。コロナにかかった方の対応は全て保健所が行っています。情報が思うように入らず、独自の判断もしづらいことも現状変わりません。現在保健所は、休日もなくコロナ対応に追われています。情報の整理や患者さんの対応に人手も不足しており、県の施設ではありますが、市川市からも応援を出していました。これから中核市になるためには、県の業務の研修や連携して引き継ぐ内容の精査など数多くのことが必要です。今コロナ禍の中、県も市も多くのコロナに関しての業務を行っています。ここに中核市への移行をするための研修や移行業務をしていく余裕があるのだろうか。コロナで市税が減収となっていく方向に、毎年継続的にかかる費用年間24.6億円以上をどのように捻出していくのかも含め慎重に考えるべきであると思えます。費用は初年度のみかかるものではなく、継続的にかかるものです。市川市は地方交付税の不交付団体ですので、移行にかかる費用も国からの応援はありません。また、上記費用は運営にかかるもので、初めに保健所や動物愛護センターなどを設置すれば、その設置費用も数億円づつ必要です。加えて試算ですが、市川市が保健所などをもって経費があがっても、地方交付税の交付団体にはならないので、交付金はもらえないようです。現在市川市の財政調整基金(市川市の貯金のようなもの)の残高は、令和2年度で218億円です。毎年の積上げ額は、平成30年度18.1億円、令和元年度24億(実質)、令和2年度は、決算見込みの数字ですが、コロナ関連の費用などで減り10億円以下と推測されています。毎年かかる経費が積上げを上回ることになればマイナスになります。人口が増え、市税収入が上がっていけば財政調整基金を減らさずに済みますが、思うように行かない場合は、市政運営や市民生活のどこかを削っていくことになるかも知れません。

No.59

令和3年7月20日発行
稲葉健二事務所
272-0021
市川市八幡2-2-10
TEL 047-333-1783
FAX 047-334-1990
URL www.inaba-kenji.jp
MAIL kenjiinaba@aol.com

稲葉健二議会質問 令和3年6月会派代表質問要旨

市議会中継をPCやスマホでも見ることができます。<https://www.youtube.com/watch?v=NDkjVquUdHw&list=PLJbQtwTsBjBdJTTQUoGedvkveleSJOfX&index=15>

○新型コロナワクチン接種について

- (1) ワクチン接種の現況と課題について
- (2) 年齢段階別接種と基礎疾患のある方への対応について
- (3) 個別医療機関接種と大規模会場接種の状況
- (4) 申し込み受付の状況と課題について
- (5) 64歳以下の方の接種スケジュールについて
- (6) 余った場合のワクチンの対応、優先順位について
- (7) ワクチン接種を希望しない方への対応について

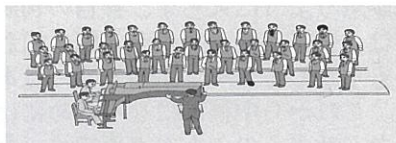
○災害時の対応について

- (1) 避難情報の変更について
 - (2) 災害時や緊急時の問い合わせ先の設置について
 - (3) 新型コロナに対応した小学校区防災拠点について
 - (4) 新型コロナ陽性者で自宅療養者の避難先、対応について
 - (5) ペットの救護、同行避難について
 - (6) ペット(犬)が災害時に飼い主と離れてしまった場合の対応に有効なマイクロチップ助成について
 - (7) 私立幼稚園の協力を得て進める災害時対応について
- ## ○まん延防止等重点措置期間の市の対応について
- (1) 公民館等の公共施設において貸出しを制限している施設や制限内容について
 - (2) 近隣他市の状況について
 - (3) 使用制限の内容や判断基準について
 - (4) 貸出しができるようにする考え方について



○清掃事業について

- (1) 燃やすごみの収集の現状と課題について
- (2) 燃やすごみ、プラスチック容器包装類ごみの量と資源ごみの状況
- (3) 資源のリサイクルに対する市の考え方
- (4) ペットボトル本体の分別収集について
- (5) 集団資源回収について



ア. 現状と課題について

イ. 回収品目や奨励金について

ウ. 回収先の選択について

○文化芸術振興について

- (1) 現状と課題
- (2) 新型コロナ感染症対策に応じた支援について
- (3) 市川市芸術祭・文化祭のあり方、方向性について
- (4) 文化芸術支援のために施設使用料の減免などで応援することについて
- (5) 市川市文化会館の改修工事について

ア. 当初の工事予定と変更になった部分について

イ. リニューアル後の施設の利用について



○幼児教育について

- (1) コロナ禍の幼児教育について
- (2) 幼児教育の質の向上に対する補助の考え方について
- (3) 特別支援が必要な子どもへの補助の考え方について
- (4) 2歳児の預かり保育に対する補助の考え方について

○市川市の内部統制について

- (1) 目的を達成するための仕組み作りについて
- (2) 市民の信頼を得る行政運営について
- (3) リスク管理や事故等発生時の早期対応を図る仕組みについて

まとめ

今回の質問は、会派の代表質問として行ったので、持ち時間も多くあり、多岐に渡って質問をすることができました。大きく7項目に分けて行いました。各項目ごとにポイントを説明致します。

○新型コロナワクチン接種については、コラムで詳しく書かせて頂きました。対象の年齢の方が少しでも早く接種ができるように、行政に対して提案や改善を要望し、不安のないように進めていくように応援していきたいと思っております。

○災害時の対応については、国の避難情報の変更がありました。今までと変わったのは、3段階の避難準備・高齢者等避難開始→高齢者等避難に、4段階の避難指示(緊急)・避難勧告→避難指示に、5段階の災害発生情報→緊急安全確保に変わりました。避難勧告という部分は廃止され、避難指示で必ず避難となりました。新型コロナに対応した避難所の運営や対応に関わる方たちが共通の認識を持ち、安全な運営ができるように提案を致しました。

○まん延防止等重点措置期間の市の対応については、この期間の公民館等で貸出しの時間制限に加えて、コーラスや歌うサークルなどに貸出しを制限していました。他市ではそのような制限をかけているところは少なく、きちんと感染症対策をした上で貸出すべきであると提案し、7月から条件付きで貸出しをして頂くことになりました。

○清掃事業については、現在コロナの対応で臨時的な燃やすごみの週3回収集が行われています。ゴミを減らす目的で週2回収集にした目的に整合するものか、また、資源のリサイクルを進めることでゴミの減量につながる事を質問しました。ゴミの量は減っていないことと、資源のリサイクルに対してはいろいろな進め方を考えていきたいとのことでした。

○文化芸術振興については、コロナ禍で多くの文化芸術活動が制限されています。そのような中、市としてどのような応援ができるのかお聞きしました。ITを使った支援の仕方や文化会館の改修完成に合わせて、様々なかたちで進めていきたいとのことでした。

○幼児教育については、質の向上に向けて様々な応援の仕方をお願いすると共に、特別支援が必要なお子さんを支援できる補助制度の提案と2歳児以下の預かり保育を進めることにより、兄弟で同じ幼稚園で預かれる幅を広げ、待機児解消につながる提案をし、今後検討する答弁を頂きました。

○市川市の内部統制については、本来市として職員の内部統制をしっかり進めることにより、市民の方への信頼につながる市政運営になることを改めて確認し、今後の進め方をお聞きしました。

稲葉健二の
6月議会中継の
QRコードです。
youtubeで見れます。

